

国立大学に対する予算の充実を求める声明
—地域と国の発展を支え、世界をリードする国立大学となるために—

平成27年12月11日

国立大学法人筑波大学 経営協議会学外委員

乾 正人	産業経済新聞社東京本社編集局長
河田 悌一	日本私立学校振興・共済事業団理事長
岸 輝雄	新構造材料技術研究組合理事長 独立行政法人物質・材料研究機構名誉顧問
小林 誠	日本学術振興会学術システム研究センター所長
小林 喜光	公益財団法人経済同友会代表幹事 株式会社三菱ケミカルホールディングス取締役会長
佐藤 禎一	国際医療福祉大学大学院教授 学事顧問 東京国立博物館名誉館長
竹中 登一	公益財団法人ヒューマンサイエンス振興財団会長 前アステラス製薬株式会社代表取締役会長
羽入 佐和子	国立研究開発法人理化学研究所理事 前お茶の水女子大学長
三屋 裕子	株式会社サイファ代表取締役
吉田 和正	オンキヨー株式会社取締役 前インテル株式会社代表取締役社長

私たちは、国立法人筑波大学経営協議会の学外委員として、昨今の国立大学を取り巻く環境に鑑み、国立大学のこれからの経営に大きな危機感を抱き、深い憂慮の念をもって本声明を発することになりました。

国立大学法人の基盤的経費である運営費交付金は、平成16年度の法人化以来12年の間に、1,470億円(約12%)の大幅な減額となっており、各国立大学においては規模の大小を問わず、その運営基盤は急激に脆弱化しており、諸経費の高騰も相まって危機的な状況にあります。

また、本年10月に開催された「財政制度等審議会財政制度分科会」において、財務省が示した今後の「国立大学法人運営費交付金」に関する提案では、運営費交付金を削減することによって、はじめて自己収入確保等のインセンティブが生まれると主張していますが、このことは、国立大学の現状や自律的な取組に対してあまりにも配慮を欠いたものであり、むしろ改革の実現を危うくすると言わざるを得ません。

さらに、家庭や学生の経済状況が厳しくなっている状況において、授業料の引上げと併せて運営費交付金の減額を行うことは、経済格差による教育格差の拡大につながると考えます。経済条件にかかわらず、また我が国のすべての地域において意欲と能力のある若者を受け入れ教育し、優れた人材として社会に送り出すという国立大学の役割を、十分に果たすことができなくなることを危惧いたします。

筑波大学をはじめ国立大学は、このような状況においても、「日本再興戦略改訂2015」や「経済財政運営と改革の基本方針2015」、「国立大学経営力戦略」などにおいて示された今後の我が国の持続的な成長発展の実現のために期待される役割を全力で果たすべく、今まさに大胆かつ迅速な改革に取り組んでいます。

また、国立大学協会が本年9月に公表した「国立大学の将来ビジョンに関するアクションプラン」においては、次代を担うたくましい人材の育成、地域の多様性と活力の発揮、未来を拓くイノベーション創出への貢献などを牽引していくための主体的な取組の方向性と具体的な工程を明らかにされたところです。さらには、厳しい財政状況も直視しつつ、大学間等の連携・共同による教育研究水準の向上を図ることや寄附金等の外部資金を含む多様な財源確保に努めることも明記され、こうした改革を長期的見通しに立って実現していくためには、基盤的経費である運営費交付金の確保が不可欠であると述べています。

私たち経営協議会の学外委員も、法人経営の観点から、筑波大学が行う多様な財源確保の確保や支出削減による改革を一層推進させるよう、学長はじめ構成員に対して支援を行ってまいり所存であります。

国立大学は、これまで「地域の文化・社会・経済を支える拠点」として、「社会・世界に開かれた学生の学びの場」として、さらに「多様な価値を創造する研究の源泉」として、各大学の個性や強みを生かしつつ、確固たる実績を残してきました。

今回の財政当局からの国立大学の運営費交付金を年次的に削減するとともに、授業料等の自己収入の増加を求めるといった提案については、国立大学が今まさに全力で取り組んでいる改革の実現を危うくするものであります。のみならず、経済状況による教育格差の拡大は、国立大学だけではなく、日本の高等教育全体につながる課題であると懸念しています。

私たちは、平成28年度からの第3期中期目標計画において、筑波大学をはじめ国立大学が期待される役割を十分に発揮し、将来にわたって日本や国際の持続的発展を支えていくためにも、基盤的経費たる運営費交付金の充実を訴えます。

については、この声明が国立大学の現状と課題に関する理解のための一助となり、今後、政府、関係機関における国立大学への財政支援の充実等に関する幅広い議論が行われ、国立大学が社会から期待される機能を発揮し続けるための基盤が維持されますことを、切に要望いたします。